

### 第75回 総会・講演会を開催

#### 1. はじめに

道東技術士委員会では、本年の6月2日帯広にて第75回総会・講演会を開催いたしました。

前半の総会では、平成28年度の決算報告と平成29年度の活動予定等を発表し、後半の講演会では、近年頻発する自然災害を鑑み、平成28年度に発生した羅臼町の斜面崩壊に関する地質調査事例と東日本大震災直後から仙台市駅前ビルの建設に携わった経験をお話して頂きました。本稿では、この講演内容を中心にご報告致します。

#### 2. 第75回 講演会

○日時：平成29年6月2日(金)

18:00～21:00

○場所：アパホテル帯広駅前

○出席者：38名(技術士36名、技術士補2名)

○講師：拓北地下開発 株式会社

取締役技術部長 福田 正人 技術士

演題：「羅臼町礼文の法面災害地質調査にて  
難航した機材搬入」

○講師：萬木建設 株式会社

取締役副社長 漆崎 要 技術士

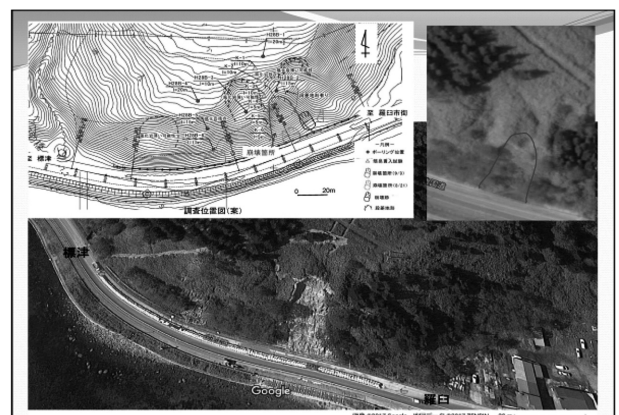
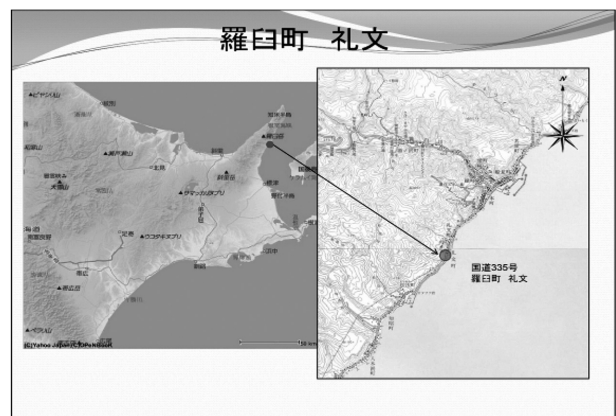
演題：「東日本大震災直後の  
建設工事現場の経験」

#### 1) 「羅臼町礼文の法面災害地質調査にて難航した資機材搬入」



《拓北地下開発 株式会社 福田 正人 技術士》

#### ①地質調査地の概要



②調査位置への資機材搬入が課題

- ・切り立った急斜面
- ・5段の既存雪崩柵
- ・斜面に近接する電柱や高压線等



設置距離 L = 150m、架設は4日で完了



③資機材搬入方法の検討

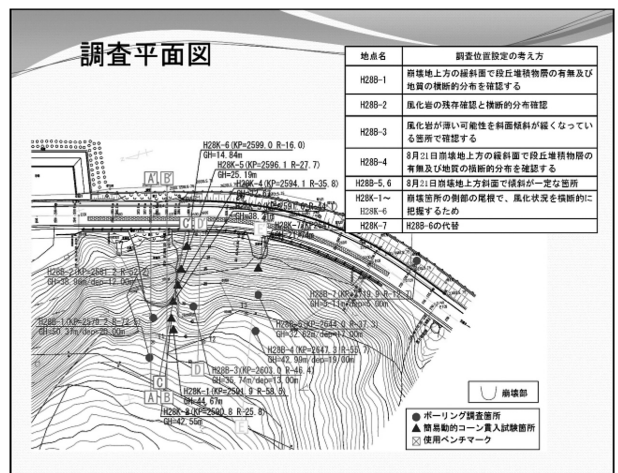


- 1) クレーンで設置する方法
  - ・斜面上部に届かない。
  - ・斜面法尻の擁壁に沿って電柱があり電線があるため斜面中間の箇所にも使えない。
- 2) 対象の横断線上部までワイヤーで資機材搬入
  - 雪崩柵が設置されており、柵と柵の間も狭いため、間を資機材が通らない。
- 3) 終点側の敷地に索道を張る。
  - ・斜面上部に高压線が通っていて、その下を通すため、許可は降りないと判断。

上記検討案から明らかになった問題点を早期に解決することが必要であった！



搬入延長は長くなるが、最適なルートを選定しモノレール仮設を採用



以上、モノレールを採用したことで架設費は割高となったが、遅滞なく調査成果を提出できたことは、災害業務における本来の目的は果たせたと考える。

2)「東日本大震災直後の建設工事現場の経験」



《戸田建設東北支店勤務当時の漆崎 要 技術士》

漆崎氏は現在、実家である釧路の萬木建設で副社長をされているが、2011年の東日本大震災当時は戸田建設東北支店にて、仙台一番町駅ビル建設工事に所長として従事されていた。この未曾有の災害の渦中、人も物も不足する状況で、復興の希望として建設工事を進める選択をした地元と連携し、本プロジェクトを成し遂げた経験を講演して頂いた。

①地元の期待を示す当時の新聞記事

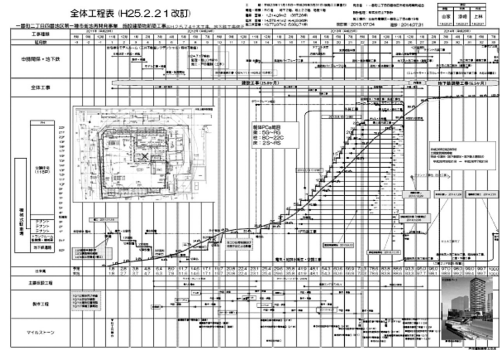


②震災復旧による生コン供給事情の逼迫

- ・生コンローリー車も津波被害
- ・深刻な骨材不足
- ・公共工事優先の生コン出荷制限など



施工工程の見直しで寝れない日々が続く



しかし、地元市街地再開発組合等の協力も得て、予定工期から2カ月程度の遅れで無事工事を完了。(施工中も地元新聞が応援)



3. おわりに

近年、全国各地で自然災害が頻発しており、各技術士の経験と知識の共有が最も必要な時期であると考えます。道東技術士委員会では、今後も同様な講演会を通じ、会員同士の情報ネットワークの構築にも繋げていきたいと考えております。